

男子第三部

平成9年以来13年ぶりに70を超える72チーム参加の男子第3部は、群雄割拠、どのチームが優勝するか予断を許さない熱戦の連続となった。

準決勝戦第1試合

府中刑務所			2	-	センコー		
(先鋒)	笠原 延浩	3段	背負投		駒瀬 雅洋	3段	
(次鋒)	森本 晴久	4段	⊖ (指導2)		鈴木 貴之	3段	
(中堅)	福岡 慶輔	3段	引分		沼田 貴廣	3段	
(副将)	影野 裕和	3段	(指導2) ⊖		石本 光樹	3段	
(大将)	大隈 将史	3段	⊖ (指導2)		武井 寛明	3段	

準決勝戦第2試合

東京拘置所			1	-	2	旭化成	
(先鋒)	村越 健太	3段	引分		寺居 高志	3段	
(次鋒)	大金 良二	5段	反則勝		川添 佑	4段	
(中堅)	竹中 孝郎	3段	優勢勝 ⊖		白井 勇輝	4段	
(副将)	菅井 直人	3段	引分		角地 信太郎	5段	
(大将)	瀬瀬 明久	4段	大内刈		齋藤 涼	3段	

決勝戦

参加3年目、回を重ねる毎に進境著しいセンコーは、本大会は穴の無い布陣で危なげなく決勝戦に進出し、初優勝を目指す。一方、軽中量級の選手でチーム構成した旭化成は、柔よく剛を制する言葉通り、体重の違いに臆することなく相手を翻弄。準決勝戦まで星を落としたのは唯一ひとつ、東京拘置所の全日本実業柔道個人選手権大会100kg級準優勝の実績を誇る元ダイコロの大金選手のみ。平成元年以来の優勝を目指す。

センコー

2

-

旭化成

(先鋒)	駒瀬 雅洋	3段	大外返	寺居 高志	3段
(次鋒)	鈴木 貴之	3段	合せ技	川添 佑	4段
(中堅)	沼田 貴廣	3段	引分	白井 勇輝	4段
(副将)	石本 光樹	3段	⊖ (指導3)	角地 信太郎	5段
(大将)	武井 寛明	3段	総合勝	齋藤 涼	3段

先鋒戦。開始46秒、66kg級の寺居の引き手厳しく、100kg級の駒瀬はやむなく片襟を持ち続け指導1を受ける。1分11秒には組み合わない両者に各指導1、指導2。指導ポイントでリードを奪った寺居は、駒瀬の両袖を握りながら大外刈を試みるも、自らも両袖を握った駒瀬が委細構わず強引に刈り返すと軽量の悲しさ、1分21秒、寺居は裏返しになって大きく宙に浮き、背中から落下。

次鋒戦。共に右組みの両者、体重で勝る鈴木が内股等の大技を仕掛けるタイミングを窺う。しかし、川添は容易にそれを許さず、逆に、場外で左に移動する鈴木に左足に体重の掛かる瞬間を小外掛で合わせ、1分34秒技ありを奪う。その後は、攻守ところを変えて川添が奥襟をがっちり押さえて試合の主導権を制し始める。中盤に差し掛かって、川添は場外付近から押え付けながら鈴木を前に引き出し、右小内刈で真後ろに刈り込むと、鈴木は尻から背の順に倒れ込む。主審はいったん有効を宣告したが、副審は二人とも技ありを表示し、2分31秒合せ技一本となる。

中堅戦。白井は体重差をものとせず堂々と組み合う。沼田は白井の軽量を衝いて強引な担ぎ技で白井を浮かせるが、白井は体を捻って逃れる。一方の白井は低い背負投、体落で沼田を揺さぶる。両者こうした攻防が続き時間となって引き分ける。

副将戦。100kg前後が中心のセンコーに対して、81kg級以下の軽中両級選手で構成する旭化成チーム。副将戦は唯一90kgを超える角地選手が登場。左右のケンカ組み手の両者、前半は互いに体落の応酬。その後は上背で上回る石本が角地の背中から押さえ付け、角地に1分32秒に指導1。続いて2分30秒には石本が繰り出す体落、足技に、角地は受けに回って指導2。2分14秒には両者に指導が与えられ、角地に後が無くなる。終盤になって反撃態勢に入った角地であったが、守りに入った石本を攻め切れず、そのまま時間と

なる。

大将戦。1点リードで迎えた大将戦。武井左組み、齋藤右組み、互いに引き手争いから始まる。体重で劣るも一步も退かぬ齋藤は、1分過ぎ場外際の引き手の攻防が続くその一瞬、左引手で武井の襟を握り、右小外刈でフェイントを掛けた後、目にも止まらぬ素早さで左右の足を大きく半回転、左足を武井の左足後方に踏み込み、上体は武井を抱え込むようにして体落で捻ると、1分12秒、虚を衝かれた武井はたまらずその場に横転して技あり。中盤以降の更なる齋藤の攻勢に、たじたじとなった武井に2分33分、3分30秒と続けて指導。その後も齋藤は、ここぞとばかり勢いを強め、遂に残り4秒武井に指導3。絵に描いたような齋藤の逆転の総合勝。軽いクラスの選手中心にチームを構成した旭化成が柔よく剛を制して優勝を飾る。